［和文タイトル，和文発表者氏名（所属，口頭発表者先頭に○），英文タイトル，英文発表者氏名（所属なし）を続けて記入（適宜改行）］

－－－－－－－－－［1行空ける］－－－－－－－－－

［抄録本文（段落行頭1字下げ）］

（次ページに説明、３ページに実例）

日本衛生動物学会大会発表用抄録書式

←左の空白は演題番号部分

［和文タイトル，和文発表者氏名（所属，口頭発表者先頭に○），英文タイトル，英文発表者氏名（所属なし）を続けて記入（適宜改行）］

－－－－－－－－－［1行空ける］－－－－－－－－－

［抄録本文（段落行頭1字下げ）］

■［書式］

B5用紙：（ワードでの設定）

余白：上25mm，下36mm，左24mm，右24mm

MS明朝，Centuryポイント15p

全角28字×33行（本文含む）

【注意】

１．前ページのコメント等を削除して各自の抄録を完成して下さい（ページをコピーし，一方の文字部分を削除すると安全です）．

２．上付文字は実例３ページの右肩「1)」あるいは

これ→「123，m2」をコピーして使って下さい（ワープロの「上付文字」は小さ過ぎます．同様に下付文字例はこれ→「123，H2O」

３．イタリックは下線でなく，斜体表示して下さい．

４．句読点は「，．」に統一して下さい．

成田空港検疫所における蚊族の調査結果について.

日本衛生動物学会大会発表用抄録例

○佐藤 之義1), 高橋 正樹1), 鈴木 尚文1),三輪 俊樹1), 片出 純子1), 牧鶴 耕司1),曽根 美紀1),長谷山 路夫1), 森 雅美1), 太田 周司1), 山本 陸夫2) (1)成田空港検疫所, 2)関西空港検疫所). Surveillance study of Mosquitoes in Narita Airport Quarantine Station. Sato, Y., Takahashi, M., Suzuki, N., Miwa, T., Kataide, J., Makituru, K., Sone, M., Hasegawa, M., Mori, M., Ota, S. and Yamamoto, M.

　港湾区域及び空港区域には，蚊族が船舶・航空機を介して侵入し，定着する可能性があることから，検疫所においては検疫法第２７条の規程に基づき，蚊族の生息状況や病原体の保有状況を定期的に調査し，衛生状況の把握に努めている．

　今回の成田空港検疫所において平成１３年に実施した調査結果についてとりまとめたので，その結果を報告する．

　成虫の調査は，捕虫網，ライトトラップを用いて実施し，幼虫の調査はオビトラップ及び柄杓を用いて実施した．

　空港区域において蚊の成虫生息調査を実施した結果，5属8種19,612頭を採取した．その内訳は，シナハマダラカ161頭，コガタイエカ1,061頭，アカイエカ（チカイエカ含む）17,530頭，ヒトスジシマカ152頭，キンイロヤブカ360頭，ヤマトヤブカ31頭，オオクロヤブカ33頭，キンパラナガハシカ34頭及びその他トラフカクイカ，クシヒゲカ等250頭であった．また，航空機内においてシナハマダラカ1頭を捕獲した．幼虫については，調査地点39ヶ所中16ヶ所についてアカイエカ，コガタイエカ，ヒトスシジマカ，シナハナダラカ等の生息が認められた．

　捕獲した蚊の成虫のうち，感染症に関与するものについて各種の病原体保有状況の検査を実施した．シナハマダラカについてはマラリア原虫抗原検査，ヒトスジシマカ，イエカ属については黄熱，デング熱，日本脳炎，ウエストナイルウイルスの検出を目的としてフラビウイルスの遺伝子学的検査を実施した結果，いずれも陰性であった．